

台風の豆知識

ホームガス課
森本 英幸

① 台風とは

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋（赤道より北で東経180度より西の領域）または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速（10分間平均）がおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

② 台風に伴う風、雨の特性

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、地上付近では上から見て反時計回りに強い風が吹き込んでいます。そのため、進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため風が強くなります。逆に左の半円では台風自身の風が逆になるので、右の半円に比べると風速がいくぶん小さくなります。台風は、強い風とともに大雨を伴います。台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に長時間にわたって降らせます。台風は、垂直に発達した積乱雲が眼の周りを壁のように取り巻いており、そこでは猛烈な暴風雨となっています。この眼の壁のすぐ外は濃密な積乱雲が占めており、激しい雨が連続的に降っています。さらに外側の200～600kmのところには帯状の降雨帯があり、断続的に激しい雨が降ったり、ときには竜巻が発生することもあります。

③ 台風 に 備 える

1. 家の外のチェック

風で飛ばされそうな物（植木鉢や物干し竿、ハンガーなど）は、飛ばないように固定したり、家の中にしまったりする。屋根、塀、壁などの点検、補強をする。車のガソリンを満タンにしておく。停電時でも、車の中で暖をとることやスマホの充電ができる。

2. 家の中のチェック

窓や雨戸はカギをかける。飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼る。カーテンは閉めて、ブラインドを下ろしておく。物が飛んできて窓ガラスが割れた際にけがを防げる。断水に備えて、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。手洗いやトイレ用に活用できる。床上の浸水対策をする（例：家財や家電などは浸水被害に備えて高所や2階に移動させる。漏電を防ぐためコンセントは抜き、低い位置にあるものは高所へ移動させる）停電に備えて、スマホとノートパソコンは充電を満タンにしておく。

3. 飲料水や非常食を備蓄のチェック

飲料水3日分（1日あたり1人3リットルが目安）非常食3日分の食料（アルファ米、ビスケット、板チョコ、乾パンなど）トイレットペーパー、ティッシュペーパー、マッチやライター、倒れにくいローソク、ロープ、布製の粘着テープ、紙袋、カセットコンロ、固形燃料、トイレを流したりするための生活用水（水道水を入れたポリタンク、風呂の水を張っておくなど）

4. 非常用持ち出しバッグを準備する

非常時に持ち出すべきものをリュックサックに詰め、枕元に置くなどしていつでもすぐに持ち出せるようにしておこう。両手がつかえるので、バッグはリュックサックが好ましい。（非常用持ち出しバッグの内容容例）飲料水、携帯食料品、貴重品（預金通帳、印鑑、現金、健康保険証など）、携帯電話、救急用品、お薬手帳、ヘルメット・防災ずきん、マスク、軍手、筆記用具、マッチ・ライター、懐中電灯、電池、ビニール袋、衣類、雨具、下着、タオル、携帯ラジオ、予備電池、携帯電話の充電器、携帯電話の充電用バッテリー、使い捨てカイロ、ウェットティッシュ、洗面用具、携帯トイレ、メガネ・コンタクト、乳児のいる家庭はミルク・紙おむつ・ほ乳びんなど。



アポ新聞

9月1日は防災の日

ホームガス課 中岡 啓明

皆様、9月1日は何の日かご存じですか？ この日は、1923年の関東大震災を教訓に、地震や災害からの備えを促すために『防災の日』と設けられました。近年では、能登半島地震をはじめ台風や大雨など生活に大きな影響をもたらす災害が、毎年発生しています。

災害時における生活の中で、様々な問題に直面します。過去の災害でも、食料の確保が困難になることが多く、迅速かつ安定して支援が届かないことも多くあります。そうすると各個人が十分な備えをしているかが重要になります。

そういった問題の中で、『ローリングストック』という言葉が注目されています。ローリングストックとは、救援物資や必需品を事前に備蓄し、災害が発生した際に迅速に使用できる仕組みを指します。これには、食料、飲料水、医薬品、毛布、衣類など、被災者が直ちに必要とする物資が含まれます。しかし、食料や飲料水は消費期限があり消費と備蓄を繰り返していく事が重要です。私も、サバの缶詰をある程度確保したうえで月1回は消費して買い足すことを心がけています。ほかにも、パスタなどの乾麺やレトルト食品といった賞味期限の長いものもおすすめです。

また、災害時には水不足が頻発し深刻な問題となります。体の約60パーセントは水でできており、脱水症状を引き起こす可能性があります。それだけでなく、水不足は衛生環境の悪化や感染症のリスクを高めます。特にこれらのことに関して、子供や高齢者は注意が必要です。猛暑が続く中、日頃の水分補給だけでなく備蓄にも注目していく必要があります。ちなみに、飲料水と調理用水を合わせて一人あたり1日3Lの備蓄が推奨されています。つまり、ご家族の人数×3L×日数の量が必要になります。そう考えると、かなりの量になりますよね？ 私も実践しているのですが、自宅にウォーターサーバーと専用ボトル（12L×3本以上）を設置しています。それだけで安心というわけではありませんが、やはり準備は大切であると感じています。

そういった知識を、私は防災士という資格の勉強を通して学びました。防災士とは阪神淡路大震災以降にできたものであり、防災に対する知識や技能を習得するものです。防災士は、日本防災士機構が認定した研修機関が実施する防災士養成研修講座を受講する必要があります。その後、試験に合格することで資格を取得できます。その過程の中で、AEDや心肺蘇生法を学ぶことができるので、いざというときに役立つかと思います。

防災は、日々の準備が大切です。ただ、やることはとても多く、何から始めればいいのか難しいかと思います。何か一つ、できることから始めてみるのはいかがでしょうか。